



ピアノはなぜ黒いけんばんと、白いけんばんに分かれているの

ピアノは、げんをたたいて音を出す

ピアノは、18世紀末から使われ、世界中に広くゆきわたっている、楽器の一つです。今のピアノには、げん(ピアノ線)を水平に張った、グランド・ピアノと、げんを垂直の方向に張った、アップライト・ピアノとがあります。

どちらのピアノでも、ピアノをひくときには、ピアノのけんばんをたたいて音を出しています。

けんばんをたたくと、けんばんにつながっている、ハンマー(つち)が動いて、それぞれのげんをたたきます。すると、げんがふるえて音が出ます。

高い音と低い音が、はば広く出せるため

今のピアノに近いものが、でき上がったのは、19世紀後半になってからです。音の量が豊かなだけではなく、オルガンを除けば、いろいろな楽器の中でも、はば広い音域(高い音と低い音の範囲)をもっています。

けんばんは、88個の白いけんばんと、黒いけんばんが並んでいます。左から右へいくにつれて、白いけんばんから白いけんばんへは全音、白いけんばんから黒いけんばんへは半音ずつ高くなっていきます。また、右から左へいくにつれて、それぞれ、同じように低くなっていきます。

けんばんが、白いけんばんと、黒いけんばんに分かれているのは、ピアノの音が、はば広い音域になるようにするためです。(監修・青木 国夫)

